

仏教と坐禅の変遷

無学求道作成「お釈迦さんが変わった方法」より

仏教は前5—4世紀に釈尊が正覚をえて、人に伝えて始まった。

その後、修行者集団を形成していった。

釈尊の教えや教団の規則などは「口伝」と修行者達で唱えあう事で記憶されていた。しかし釈尊入滅後書いておくことが必要だと編集作業が始められた。原始仏教といわれる「阿含経など」はほぼ形が整うまで約百年あるいは約二百年かかったとされている。

仏教は根本分裂して上座部仏教と大衆部仏教に分かれる。

紀元前後から大乘仏教が起り一世紀ごろ西域や中国に伝わった。

中国ではいろいろな仏教が誕生するが禅宗は五世紀ごろ初祖ダルマに始まる。二祖慧可につがれ三祖僧サン、四祖道信、五祖弘忍へと伝えられる。弘忍の弟子**神秀**は中国北部で**漸悟禅**で知られる「北宗」をたて活躍した。なかなか好評の人生を送ったようです。しかし、北宗は2代目の頃に以下に書く荷沢神会の「頓悟」の喧伝のために圧迫され衰退たいする。

また弘忍の弟子**慧能**は南部で「南宗」をたて活躍した。慧能の説法や講話が弟子によって書かれ編纂されていた。

これを慧能の死後、荷沢神会が改ざんして「六祖壇経」として編纂、門外不出として南宗にいきわたらせた。さらに「**頓悟禅**」を喧伝して北宗を批判し圧迫衰退させる。自身の荷沢宗も二代目で衰退する事になる。

悟った人・**道元**禅師は「六祖壇経」を**偽作**だと断定したということです。

慧能の弟子である慧忠が「『壇経』は改変された」と憤慨していた。

など色々な問題を含んだものだったようです。人格的に問題があった。

この**異端児**・神会の頓悟はその後の禅宗にどのような影響を与えた事だろう。

慧能の坐禅や教えは弟子青原行思に引き継がれ発展し、曹洞宗の誕生を見て、日本の**道元**禅師につながった。

またもう一人の弟子南岳懐譲もなかなか発展させて**臨済**・臨済宗につながり、日本の**栄西**禅師へとつながる。臨済宗の中国の祖師たちが日本の禅師を育成したことで、**日本臨済宗の各派**の設立に貢献した。

中国臨済宗の末流に生まれた隠元禅師は**日本黄檗宗**の設立に貢献した。

参考資料 ヤフー百科大辞典、ウィッキペディア

私・無学求道の意見・・・体験からすると。

漸悟ではありますが、**釈尊の坐禅を見直そう**ということです。